

褚

亮

碑

永徽年間頃(650)

(唐時代)

## 旧い書法様式の刻石⑧

木  
雞

木雞室

伊藤 滋

褚亮碑

馬周碑

図版②「褚亮碑・全体」



図版③「褚亮碑・碑額」



図版④「褚亮碑・馬周碑比較」



初唐の三大家の一人・褚遂良の父である褚亮の事績を記念する石碑である。褚亮碑は、昭陵に建てられており、二十八行、一行六十字余りからなる巨碑であるが、昭陵の多くの碑石と同じく、碑面の大部分の文字をひどく壊されて見ることが出来ない。そのため褚亮碑の拓本は、碑の上から二十字あまり、上部のみの文字が割合鮮明に残る所を拓したものが多い(図②)。古来より碑額の書は、褚亮を深く信任してきた

唐の太宗が書いたと伝えられている。堂々とした篆書であるが、筆画のことどころに隸書の波磔や伸びやかな払いを見ることが出来る。隸書の筆勢を多く示す篆書である(図③)。また碑の本文は、隸書体である。起筆、終筆なども楷書の趣は全くなく、見事な波磔を具えた隸書体を示し、完成度の高い書風である。まさに唐の隸書の典型と言ったことが出来よう。そのためにこの碑の筆者を、同時期の「馬周碑」を

書いた隸書の名手・殷仲容と言い伝えられている。馬周碑と褚亮碑の書風はともに同じような隸書であり、隸書の文字構成、点画の筆勢なども非常に近いところがある。微妙に異なるところもあり、同一人の書とは断定しがたいところがある(図④)。この褚亮碑が建てられた頃は、褚遂良が活躍していた時であり、まさに初唐楷書の最も隆盛を極めていた時代であるが、唐王朝の重臣の碑文は、旧式の隸書体を使用

している。

次号は、「石台孝經碑」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp



# 書道芸術院

## 平成の群像 (2013)



千葉県展 2010・10「忘塵」



### 村山元信

#### ■指導

▽良さを引き出し育てることが基本。一つの色に染めることではあるまい。

#### ■書・作品

▽時代を切り拓く書、歴史に残る書。いつの時代の眼にも応えられる、時代を超えた書美。

▽古典にある現代性。新しいものの底にしっかりとある古いもの古典（立川談志）。守るだけでは伝わらない、攻めることも忘れない（中村勘三郎）。古筆もあの時代の新筆（春名好重）。時代を読み、時代に挑戦する、時代を超えた真の書。

▽感性。創造力・想像力。精神性、生命力。技術を超える、深い思索。たゆまぬ実践。書だけでなく…。

▽多様性が育む深さ・響き・余韻・奥行き・輝き・豊かさ……。品格、風格。

▽呼吸・リズム、余白・間、……

▽黒（形・線・墨色）と同じように白が大事。白こそが輝きを与える。

▽表現停止、表現過多。

#### ■学書

▽「本物」に接し、感性研ぐ。

▽眼があつての書—目ならいができないと手習いしてもうまくならない—

よい作品がわかる=自分の作品が見える=創作へ。指導=選定=審査にもつながる。

▽自らの書の世界を創りあげていくこと。感想や意見を聞き取る

性はもちろん、確かな技術から生まれてくるもの。技術は、ひとマネ、ものまねのためではない。

#### ■作家としての自負と謙虚さ。

▽良さを引き出し育てることが基本。一つの色に染めることではあるまい。

▽師風をまねるのは楽だが、そっくり書くことにどれほどの意味があろうか。形式をまねてもはじまらない。

▽師・種谷扇舟は、基本的に「手本」は書かなかつた。求めもしなかつたし、なれば書けないなどというなきないことはなかつた。あれば引きずられる。

▽個性を育てる考えが薄れ、模範揮毫に傾く最近の流れで、作品の幅がなくなっていることは否めない。

▽「丁寧すぎる」時代。怒られたり、自ら「学び取る」ことが少くなり、底力失せた。

#### ■書の世界・書道の世界

▽芸術としての「書」の確立はなかなか進まない。日本の文化としての書への関心いまひとつ。社会の認識も大きいが、先ずは書道に関わる者の意識の高まり、そして発信。

▽真の力に応じた評価。量に惑わされないプロフェッショナルな厳しい世界に！時代の声、外からの声に、創造的であるべき書人自身がめざめることと感じる。

▽リーダーに深い思索、哲学を。時代が見え、語れること。

▽人間性も含めて「作品」がすべて！ 究めたい！

## 癸巳の歳にあたり

明けましておめでとうございます。

本院創立65周年の節日を過ぎ、中央展（東京セントラル美術館）、西日本展（奈良県文化会館）、東日本展（せんだいメディアテーク）3会場での本展開催と全国13総支局での役員作品巡回展開催、65周年記念誌の発行など記念事業も無事終了しました。関係役員はじめ会員諸氏のご協力ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

本年平成25年は4月に予定されている公益財団法人移行と、久しぶりに東京都美術館にて開催の第66回展、更に今回より併催される第64回全国学生書道展も着々準備中です。

新体制発足と併せ着実な歩を進めたいと思つております。東日本大震災からの復旧、復興もままならぬ現状ですが、共に手を取り合つて前に進みましょう。皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。



平成25年元旦

財団法人書道芸術院理事長

辻元大雲  
役員一同

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

賜 毎日書道会評議員会・理事会開催  
名譽会員に名久井裕三、参与会員に  
濱田尚川、宮澤梅径各先生推挙

2013年度の65回展・記念事業はじめ事  
業計画・予算など重要事項が審議され  
決定した。

第65回記念毎日書道展関係

日程 2月4・5日開催の運営委員  
会で決定。ほぼ昨年同様日程。

実行委員長 石飛博光

総務部長 室井玄聰

審査部長 仲川恭司

陳列部長 鬼頭墨峻

運営委員（院関係）石井明子（かな）  
小竹石雲（近詩）小伏小扇（大字）

板垣洞仙（前衛）  
記念増枠 当番審査員（10%）  
入賞枠 会員賞（各部+1 計33）  
毎日賞 秀作賞ほか全て10%増  
各展実行委員長 後藤大峰（仙台）  
記念事業関係

パリ展実行委員長 辻元大雲  
(出品者) 恩地春洋、辻元大雲、千  
大野祥雲、小竹石雲、下谷洋子、千  
葉蒼玄、板垣洞仙、後藤大峰、坂本  
素雪、種谷萬城（以上院関係）  
巡回展実行委員長

下谷洋子（前橋）坂本素雪（青森）  
・協会参事への推薦 競書大会出品団

小竹石雲（岡山）ほか計10会場  
名譽会員推挙 名久井裕三ほか4名  
参与会員推挙 濱田尚川（漢字）  
宮澤梅径（刻字）ほか6名  
審査会員、会員、会友昇格（略）  
特別展示 「手島右卿の世界性」  
その他各種事業案（略）  
国立新美術館にて開催  
法人移行 一般財団法人へ 2013年4月  
1日より移行予定

## 高野山書道協会役員改選

3年任期の改選期にあたり、3期9年  
副会長を務められた恩地春洋、大井錦  
亭、飯島春美各先生が顧問に昇格され  
たことに伴い大幅に改選された。

（院関係○新）

顧 問 ○恩地春洋

副 会 長 ○辻元大雲

常務理事 大野祥雲、○下谷洋子

理事、参与は院関係変更なし。

・高野山開創1200年記念 獻書事業  
平成27年に開創1200年を迎える高野山  
金剛峰寺では前回の150年記念事業と同  
様、全国の書道家に呼びかけて献書事  
業を企画、全日本書道連盟に協力要請。

招待作家120名（表具料は本山負担）、  
パリ展実行委員長 辻元大雲  
(出品者) 恩地春洋、辻元大雲、千  
大野祥雲、小竹石雲、下谷洋子、千  
葉蒼玄、板垣洞仙、後藤大峰、坂本  
素雪、種谷萬城（以上院関係）  
巡回展実行委員長

6名が就任。  
このたび「書の教室」を「書道芸術 学生版」  
に改称、来年4月号より

推薦作家、連盟維持団体、贊助団体の  
推薦により（毎日展審査会員以上）表  
具代は各自負担となる予定。献書事業  
実行委員 星弘道、田中節山、石飛博  
光、鬼頭墨峻、辻元大雲、船本芳雲の  
書道芸術」を商標登録することを踏まえ、  
「書の教室」の誌名を「書道芸術  
学生版」と変更することになった。特許  
事務所からのご指導をいただき、理事  
会・評議員会で検討、併せて商標登録

体の責任者は協会参事へ推薦します。  
院事務局までお申し出を。

## 「TOKYO書2013 公募団体の今」

2012年4月よりリニューアルオープン  
した東京都美術館では美術ジャンルご  
とに公募団体より推薦された作家を招  
待、大規模な企画展を開催。既に洋画、  
工芸、彫刻、日本画は4月より順次開  
催、2013年1月4日より16日まで書道部  
門が開催される。

「TOKYO書2013 公募団体の今」  
と題して、参加団体は謙慎・創玄など  
18団体。1～4名推薦、計38名出品。  
書道芸術院からは3名参加する。

・小竹石雲、下谷洋子、千葉蒼玄  
一人10mのもち幅で高さ4m以内は  
壮観である。

正月2日からは朝日20人展が上野松  
坂屋で、4日からは都美にて日書展、  
5日から銀座では新春展が和光とセン  
トラル美術館で、かねまつでは竹扇会  
書展と春から大賑わい。見逃さないで。

これまで「書の教室」として発行し  
てきたが、今回「書道芸術院」「書道  
芸術」を商標登録することを踏まえ、  
「書の教室」の誌名を「書道芸術  
学生版」と変更することになった。特許  
事務所からのご指導をいただき、理事  
会・評議員会で検討、併せて商標登録

することとした。昨今の情勢からの措  
置であり既に発行元は「財団法人書道  
芸術院」に変更しており、併せてご了  
解いただきたい。

## 九州 牧泰満支局長個展開催

本院評議員、九州支局長をお勤めい

ただいている先生の10回目の個展が開  
催された。大分県立芸術会館を会場に  
超大作、また天井から床面まで立体的  
に大胆な構成で観る者を圧倒するスケー  
ルであった。

12月11日から16日まで開催。15日に  
は本院恩地会長、理事長辻元ほか多く  
の参会者により盛大な祝賀会も催され、  
盛況であった。



牧泰満先生の個展会場

## 漢字(四)

石田春窓

昨年の秋の春洋会展で「巳」の造形というテーマを取り上げました。



想像しながら制作に取り組むことが出来ました。

制作に当たり、春洋会の研究会では、言葉のイメージをふくらませて文字の意味を表現します。自分でどんな線で書くか、どんな形にするか、墨色はどういう風にするとか、ネライをはつきりとして今迄に持っていないものを発見するように努め、作品づくりをしました。今回はテーマを決められましたので素材に迷うことなく、色々な「巳」

「巳」は簡単な画から出来ていますので表現が、むずかしく長い線の縦画をしっかりと強くとじう思いで書きました。平成25年の「巳」の年が、平和で明るい年になりますよう祈ります。

## 21世紀の書

### —私主張—

## かな(四)

平川峰子

五島美術館の展示施設がリニューアルされたので、早速第一部の奈良・平安編を観て来ました。

ニア世代には必要不可欠です。そして運の良いことに近年、ipadやスマートフォンが進化し、本も画面を大きく

古写経、絵画のほかに心待ちにしていた高野切（第一種・第二種）、関戸本朗詠集切・古今集切、升色紙、寸松庵色紙、本阿弥切、石山切、松籟切などを含めたたくさんの古筆は感動そのものでした。ガラスケースに入っているこれらの古筆を観る時は必ず単眼鏡を持参し、その線質も鑑賞させていただきます。拡大して読むということは我々シ

ト外先でいつでも雅な古筆や源氏物語絵巻を好きな大きさにして触れられると思うと楽しみです。

記録しておきたい嬉しいニュースがあります。ノーベル医学生理学賞がiPS細胞（人工多能性幹細胞）を作り出すことに成功した山中伸弥教授に。



ニア世代には必要不可欠です。そして運の良いことに近年、ipadやスマートフォンが進化し、本も画面を大きく

2011年4月 玉松会展

平川峰子書

# 書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成24年11月23日(金・祝)  
於 上野精養軒

## 「総選挙と混迷政局の行方」

講師 岸井成格先生

### △公開講演会△

理事長 辻元大雲

恒例の院創立記念日公開講演会が11月23日午後2時より上野精養軒にて、毎日新聞主筆、岸井成格氏を講師としてお迎えし、200余名の会員他の収集を得て満員の盛況の中行われた。

当日午前中には財団法人書道芸術院理事会及び評議員会が開催され、主に公益法人移行に伴う定款の審議、最初の評議員選任の報告などが行われた。

「総選挙と混迷政局の行方」と題して、現下の衆議院解散総選挙へと突入した政局をテーマに、毎日新聞主筆として当代随一の論客、テレビでの辛口政治コメンテーターとしての岸井氏から生々しい政治情勢や今後の見通し、更に我々国民生活への影響、国際的な面での反響など書とはあまり関係ない内容であったが、具体的なお話は興味尽きないものであった。

内閣支持率とはどう判断するのか。30%以上ならば安定、以下25%までは危険水域、25%以下は崖っぷち、20%以下は転落と解説。とすると今回は「自爆テロ解散」と警えた。あえて「死中に活を求める野田政権」とも。

民主党内部の問題、更に第三極勢力の

台頭で混迷度が急進など、今回の解散総選挙に至る情勢を分かりやすくお話し頂く。特に「失われた20年」、アメリカ主導からリーマンショックによる世界経済の変動、中国の急激な台頭、アジア太平洋国家構想、TPP問題、更に日中韓3国のFTA問題など何が何やら理解できない方面の内容も。海底海洋資源から領土問題への波及、歴史認識の隔たり、国内問題としての脱原発は国際問題としても大きく影響していくと警句を発せられ、毎日新聞社は今後脱原発の方向を基本的な姿勢として打ち出すことを決めたと述べられた。

時間が足りず環境問題なども取り上げたかったが、皆さんと共に考え行動していくたいと結ばれた。終わりに質疑に移り、西林乗宣常任顧問他から活発な意見質問が寄せられた。

講演会終了後、会場を移して院創立記念日の祝賀懇親会がにぎやかに開催された。岸井氏は先約のため出席できなかつたが西村修一毎日書道会事務局長がご臨席賜りご挨拶をいただいた。



熱心に聞き入る受講者

## 懇親会

### 三浦 鄭街

丁度、衆議院議員総選挙の直前で、創立記念日の岸井成格先生の特別公開講演会は大いに盛り上りました。終了後、恒例の懇親会を行いました。

第66回書道芸術院展を控え、今回展任され、皆様のご協力により無事終了出来ました。ありがとうございました。懇親会の報告といたします。

岸井成格先生の講演会で、岸井先生が関わっている絵本の紹介がありました。事務局で取りまとめますので『岸井先生の絵本希望』一冊千円（送料は別途）冊数もお忘れ無く、受付は1月31日まで、ご連絡お待ちしています。

懇親会は(財)書道芸術院 辻元大雲理事長のご挨拶に始まり、恩地春洋会長の乾杯、とても和やかな雰囲気の中、全国13の総局支局長の先生方から第65回記念書道芸術院展巡回展の報告、来年の行事予定、展覧会等のご案内が紹介されました。北は北海道、南は九州まで書道芸術院は全国各地から集まっている事を再認識いたしました。

来年の単位認定講習会は東京総局が担当で滝春芳総局長から「静岡県熱海市のホテル金城館で平成25年8月17日（土）～18日（日）に開催します。皆様奮ってご参加を。」と案内がありました。

新年1月5日から毎日書道会主催「現代の書 新春展」、2月6日から「現代女流書展」それぞれの出品者の先生方の紹介もありました。

中締めは名譽顧問の小伏竹村先生にお願いし、「まだまだ若い者は負けないよ。皆さん頑張りましょう。」と力強い言葉をいただきました。…

恩地会長のあいさつ



岸井成格  
(きしいしげただ)

（194年8月22日生 東京都出身）

日本のジャーナリストで、毎日新聞主筆。21世紀臨調運営委員。早稲田大学政治経済学部客員教授。日本ニュース時事能力検定協会理事長。父は政治家の岸井寿郎氏。慶應義塾普通部から慶應義塾高等学校を経て1967年に慶應義塾大学法学部法律学科を卒業。卒論ではトロツキーについて論じる。同年、毎日新聞社に記者として入社。熊本支局を経て、政治部に勤務。ワシントン特派員、政治部副部長、論説委員、社長室委員、政治部長を歴任。その後、編集局次長、論説委員長、特別編集委員などを経て、2010年6月から現職。主にTBS系列の番組に政治問題の解説者として登場している。白髪、口髭がトレードマーク。著書に『大転換～瓦解へのシナリオ』（毎日新聞社）、『永田町の通信簿』などがある。





# 展覧会風景



東西大家の揃い踏み



大通美術館の偉容



陳列の様子



恩地会長と齋藤支局長を囲んで



会長と支局の女性たち



陳列の様子



会場の様子



財団役員の先生方

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〈解説〉 顏氏家廟碑は顏真卿が父の顏惟貞のため  
に廟を建て、先祖以来のことを詳しく述べたもので  
ある。  
廟は壊れ、碑も倒れていたのを、宋初に重立され  
た。四面刻、二〇〇字をこえる晩年の代表作。重

刻して建てたかどうか、はつきりしない。

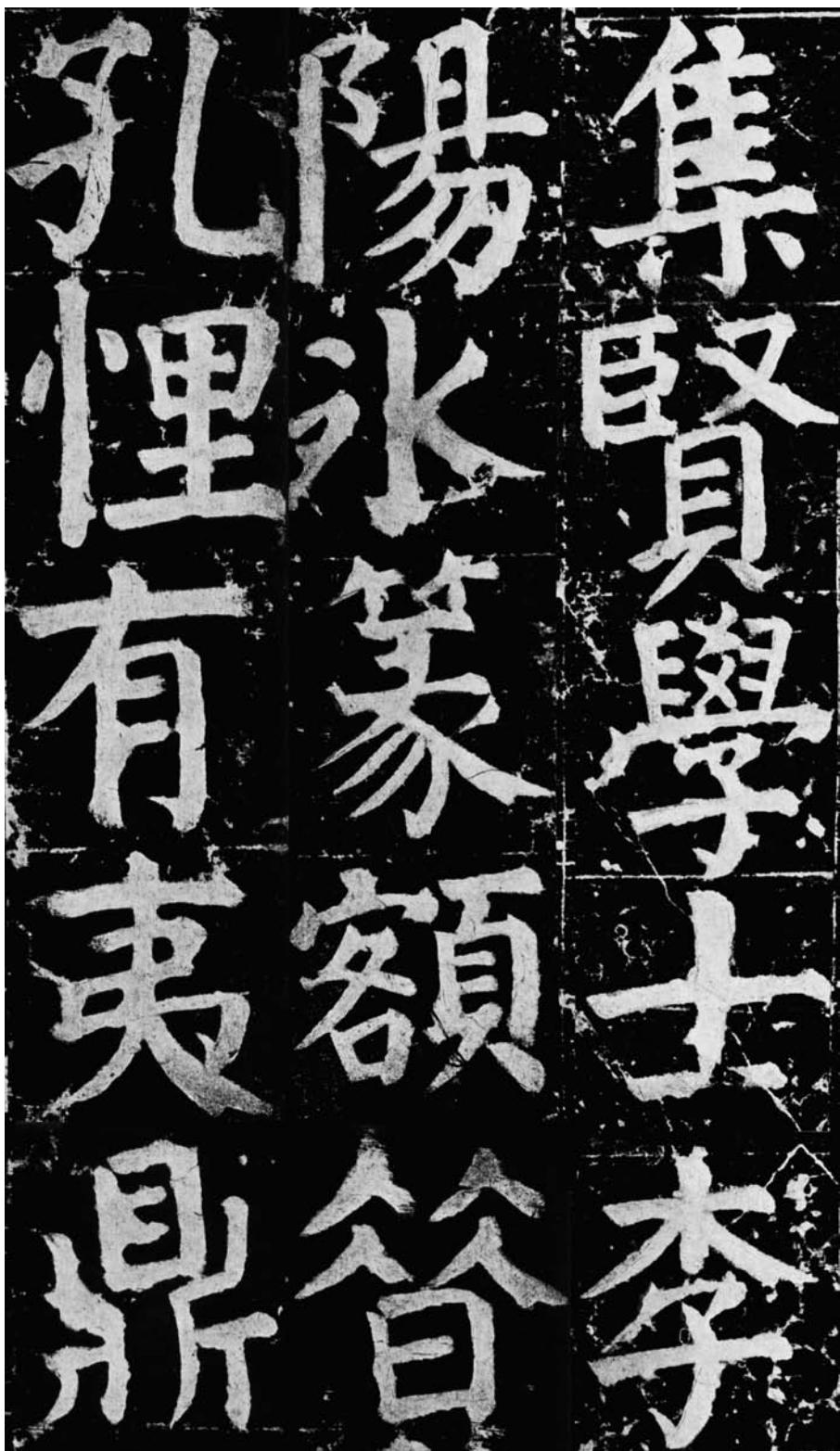
特徴として、起筆に筆峰をくるめて蚕の頭のよう  
にし、波法の終りを一度押えてから筆を上に抜くの  
で尾が二つに燕尾のようになる。「蚕頭燕尾」

(編集部)

用紙 半紙普通判  
左の法帖の中から  
何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみ可)



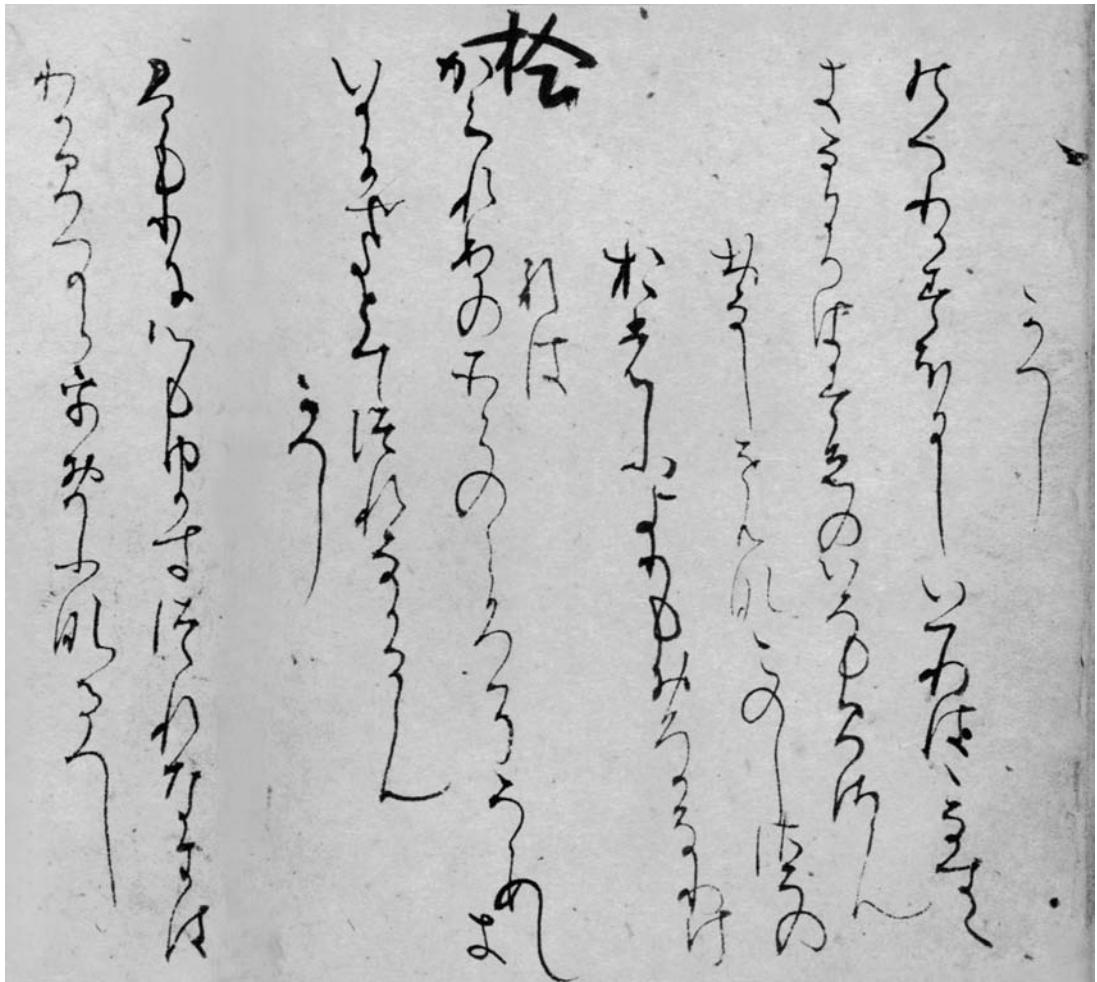
孔 悅 有 夷 鼎

陽 水 篆 額 曇

集 賢 學 士 李

毎日展公募サイズ以内・縦横自由  
左記の掲載以外も可

- =注= かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)  
 落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ也可)  
 •用紙は半紙普通判(料紙可)〈たて長に使用〉  
 別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。



よみ  
かへし  
かづほにしいづればなす  
おなじをむなこのしさうの  
おもしろおろかなりけ  
れば  
かくれぬのそこのこゝろぞうらめしき  
いかにせよとつれなかるらむ  
かへし  
み見こもりに心もゆかず  
わがみづからをおもふなるべし

〈解説〉 一条摂政と呼ばれた藤原伊弉の家集。自らを大蔵史生倉橋豊蔭という人物に仮託し、豊蔭と女との恋歌の贈答という形でまとめた自撰部分と、他撰部分とから成り、計194首の和歌を収める。初めの自撰部分は、歌物語である。  
 書風は、切れ味のよい運筆が縦横に動き、字間や行間の広狭から生まれる余白のバランスが見事である。  
 この本は藤原定家の所持本であったため、定家の書き入れがあり(手沢本といふ)、定家が外題(表題)も記している。(掲載の中央)上部の拾が書き入れたもの。

(編集部)

最首翠風

学者如登山  
(学者登山の如し)



書体=自由

新しい年を迎えると、筆も心機一転の気構えがほしいものです。そんな機にふさわしい語句を選びました。書を学ぶことも山に登る厳しさと同じです。麓から二合目三合目と暫くは樂で嬉しいのですが頂上に近づくほど苦しくなります。そこを耐えて学書を続けることで思いがけず視界が開ける時があります。

今月の参考課題は隸書。隸書には素朴な味わいの古隸(開通褒斜道刻石、石門頌、楊淮表記など)と波磔のある八分隸(曹全碑、礼器碑、張遷碑など)があります。参考作品から曹全碑を想像していただけたでしょうか。基本的な書風から更に発展させ木簡隸など大いに楽しんでください。

「學」は「学」の旧字体

学者如登山 よみ(学者登山の如し)

習い方解説(四)

小浜大明

長樂萬年  
(長樂萬年)

今迄、顏真卿と歐陽詢を参考に書いてきましたが、顏法は概ね「向勢」で表現しているのに対し、歐法は「背勢」に書いています。今回は向勢をとり入れ、少し小さ目に書き、余白が明るく感じられるよう表現しました。

「長」上部の短横画の間隔が等しくなるように。又、「レ」部分の撥ねる角度に注意して下さい。

「樂」上部を引き締め、木部の足が長くなるように。  
「萬」下部を向勢にし、空間を明るぐ。  
「年」縦につきりと伸びるように。



かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

### 習い方解説 (四)

石井明子

水仙の束とくや花ふるへつつ  
(渡辺水巴)

水仙

束とくや花ふるへつつ  
水巴句

よみ方 水仙の束とくや花ふ(布)るへ(弊)つ(づ) 水巴句

創作

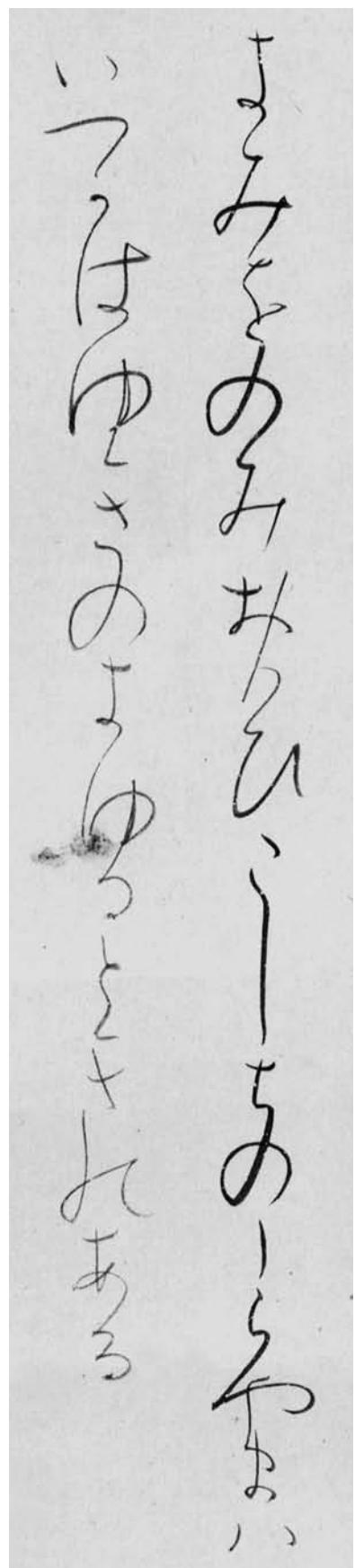
お正月には必ず活ける香り高い  
日本の花と思っていた水仙は、実は  
地中海沿岸原産で、シルクロードを  
通ってきた花でした。その凛とした花の微細な動きを作者はふるへつゝと言ったのです。

水巴(一八八一—一九四六)は内藤鳴雪門。選んでみたら、水巴」ということが多く、共感を覚え、深く惹かれる作家の一人です。字数を増やしたく、水仙、束、花のかなへの置き代えも試みましたが、結果、テキスト通りにしました。子規以降の俳句は現代的表现にしたいとの願いはありますが、未だ成功に至りません。草書を行書にする、墨継ぎを変える、行の長さを変える等の工夫は大切です。変化を求めて、奇を衒うことに陥らないようにしましょう。

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 き(支)みをのみおも(天)ひこしづらやまは(八)  
いつか(可)はゆきのき(支)あるときの(能)ある

### 習い方解説 (一)

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

奥田瑞舟選書

奥田瑞舟

ほのぼのと春こそ空に来にけら  
し天の香眞山霞たなびく

(後鳥羽院)

かの、一とまゆ、ふわ、こまにまき

まや、香り、こまく、まく

よみ方 ほ(本)のほのと春こそ(所)空に(一)來にけ(介)らし(志)  
天の(能)香眞山か(可)すみ(二)た(多)な(那)び(悲)べ

創作

作品中に、漢字や変体がなを入れることで、平がなだけでは表現出来ない行の変化や幅を出します。  
今月は、春、空、來、天、香眞山と七文字漢字を使いました。  
違和感はないでしょうか。かなとの調和を考慮して、書体、字形を工夫してください。

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (四)

16

辻元大雲



(釋至仁)

書体=自由

碧潭波冷白龍臥 翠竹雲深丹鳳鳴  
(碧潭波冷やかにして白龍臥し、翠竹雲深くして丹鳳鳴く)

正月らしく天下太平を詠んだ句です。「丹鳳」とは赤い鳳凰。前回の連綿表現から今回は草書單体で表現してみました。草書は字形の変化や大小の変化を取り入れやすく、条幅形式や全紙など大きな形式では大胆な冒険も出来る魅力的な書体です。但し、省略した字形から誤字や別字を書きがちです。気をつけましょう。

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小伏小扇選書

習い方解説 (四)

小伏小扇



四海生春風

(四海春風を生ず)

(閻若璩)

書体=自由

習い方解説 (四)

千葉蒼玄

石破 魔矢 手に  
思いも新た  
年、初め  
平成二十五年 癸巳元旦  
蒼玄書

今年は癸巳（みづのとみ）の年にあたるが、これは十干十二支という年の数え方からくるものである。“甲子”（きのえね）から癸亥（みづのとい）までの六十年で一回りとなることにより六十歳のことを還暦というが、若い人の中には成り立ちを知らない人も多いだろう。野球で有名な甲子園も甲子（きのえね）の年にできたのでこの名がある。また“仲秋の名月”（八月）や“新春（一月）のおよろこび”なども月の数え方からの名称であるが、そもそもとの成り立ちを調べてみるのも書道の基礎知識として楽しいものがある。

私もそろそろ還暦が近くなるが、不惑の年をはるかに過ぎても迷うことばかり、今年こそは破魔矢を手に“思いを新た”にと願うばかりである。

用紙＝はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

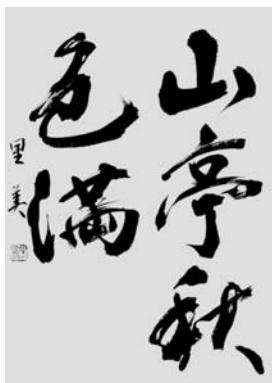
書体＝自由

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

ホープ作品  
各部総評 No.619

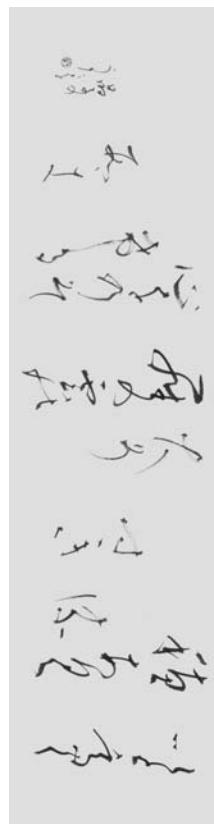
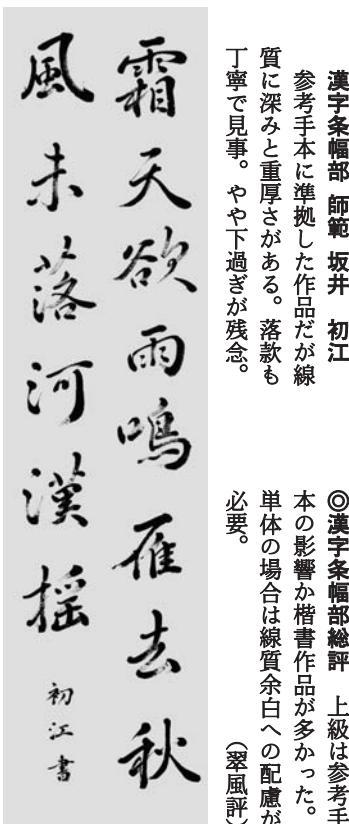
**漢字部 師範 土屋 里美**  
力感溢れる安定した行書表現。  
やや厚味ある線質が豊かな表情を見せてリズムもよい。

◎漢字部總評 上級五文字表現は配字の関係からか気分の小さい運筆のリズムに欠ける作多し。下級楷書も含め広がりある作を。(大雲評)



**かな条幅部 師範 長谷川千峰**  
習熟し冴えた筆致ですっきりと明るい作。継色紙の構成美漂い、各行の高低、墨量の変化も良い。

◎かな条幅部總評 紙面の調和に欠け、左右の余白が広すぎた作品が見受けられた。参考手本通りの作品は高練度の作が多い。(多希子評)



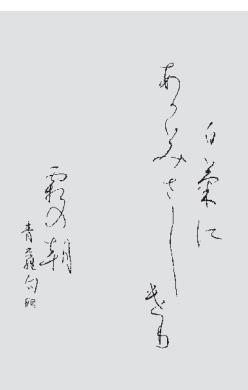
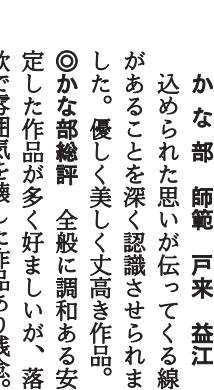
**前衛書部 特選 西岡 悅子**  
深みのある重厚な書線で上下をまとめ、中央部の簡潔な処理が冴え、魅力ある作となっている。

◎前衛書部總評 表現力豊かで、現代性溢れる作品が多く、好感がもてる。印の位置注意。(仙草評)



**現代詩文書部 特選 佐々木一峰**  
目を閉じても富士山の残像が見える。大字と小字の組合せによる余白は残雪のような美しさである。

◎現代詩文書部總評 作品構成がワンパターーン化している。筆の太さや墨色の工夫も必要。(素雪評)



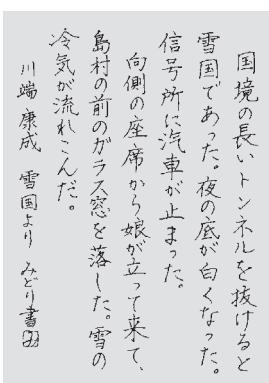
**かな部 師範 戸来 益江**  
込められた思いが伝つてくる線があることを深く認識させられました。優しく美しく丈高き作品。

◎かな部總評 全般に調和ある安定した作品が多く好ましいが、落款で雰囲気を壊したこと。(明千評)

◎漢字部總評 上級五文字表現は配字の関係からか気分の小さい運筆のリズムに欠ける作多し。下級楷書も含め広がりある作を。(大雲評)

各部総評

No.619



**ペン字部 師範 都丸みどり**  
筆圧に強弱を加えながらリズム良く運筆、スッキリと美しく上品な作品に仕上がりました。

◎ペン字部總評 川端康成の有名な「雪国」。ペンを運びながら口ずさんでいる方も多いが、どうぞよろしく。更にご精進を。(鄭街評)

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が黒くなつた。信号所に汽車が止まつた。向側の座席から娘が立つて来て、島村の前のガラス窓を落した。雪の冷気が流れこんだ。

川端 康成 雪国より みどり書

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

臨書

(手葉) 竹浪叙舟

「孟法師碑」



碓井 弘書

188×45cm

かな  
(前橋)

碓井 弘

竹浪叙舟臨

「土屋文明の歌」

◆空間の白が輝いて見えるのは線の切れ味が良いからか。少し動き過ぎる箇所も見られるが無難にまとめた。

(洋子評)  
(倫子評)

◆すつきりと無難な作。細味の線状だが骨格があり、豊かな動きで紙背を喰む。線の方向一考したい。

(洋子評)  
(伦子評)

◆切れの良い線で最後までリズムも一貫している。一行目後半は少々まとまり不足。同じ動きになった。

(蒼玄評)

◆やや細身の長尺に短歌を爽やかに表現。リズム感よくまとまりあるが、呼吸が短く感じる。

(大雲評)

若迺岱山龍駕傳神丹之祕決秦都鳳祠流洞  
簫之妙響用能延頽年於昧谷振朽骨於玄廬  
白玉之簡祈西王而可值青雲之衣師東陵而  
易襲豈非度世之寶術登遐之妙道焉

叙舟臨

136×35cm

臨書

(手葉) 竹浪叙舟

「孟法師碑」

◆孟法師碑の生真面目な雰囲気をよく捉えている。文字の大小の乱れが少し気になるが好感持てる作。

(大雲評)

◆おおらかな臨書で品格がある。孟法師碑としては今一步強さがほしいが、伸々とした臨書で温かい作。

(伦子評)

◆原帖を丁寧に把握した緻密な模範作。一点一画搖るぎなく、氣を貫通させて整然とまとめ、姿勢に敬意。

(洋子評)

前衛書

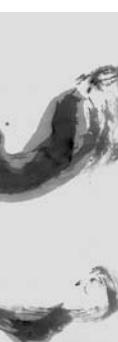
(香書)

泉水香艸

「風による」

◆今回の前衛書の中でも独特の雰囲気を持つ。このオリジナリティが大切。墨色や線質に一層の精進を。

(洋子評)



69×90cm



泉水香艸書

◆厚手の画筆紙にたっぷりしてじみをきかせダイナミックに表現する。墨色の冴えが今一步か。

(大雲評)

◆大きな動きで空間を切つて心地良い。線の方向が同じになつた所は一考を要する。墨色は今一步研究を。

(伦子評)

◆丁寧な臨書で一点一画しつかり書けているが文字の結体が少々間伸びしたような所が見られる。

(蒼玄評)

前衛書  
(苑書) 武山櫻子「冬海」



東原扇樓書 55×173cm

◆淡墨に一本の筆を運腕大きく駆使し、動きの気儘さが面白い。ただ、割れた線が直接的過ぎるようにも。（洋子評）

◆大らかな線で全体を構成している。直曲も要所に配置しているが墨の色は一考を要する。

（蒼玄評）

(蒼玄評)



武山櫻子書

179×60cm



岩崎陽光書 50×168cm

◆ きれいにまとめて品格がある。普段の作品からすれば静かな作であるが、このような作品も又魅力的。  
◆ 余白を生かした余裕と品格ある作。潤渴の変化が紙面に動きを与えてリズムを醸す。無理のない作。  
（大雲評）  
（蒼玄評）

(大雲評)



現代詩文書  
岩崎（陽陽）

◆上部から大胆に切り込んで世界が大きい。線の開閉というより鋭さを見せた作。印は下すぎたか。（蒼玄評）

◆造形の中心を下にして安定感を出した。上部の回転から一気にかけ降りた線は小気味良い明るい作。（倫子評）

創作の部(52点)	
漢字	— 6 点
かな	— 7 点
現代	— 16 点
篆刻	— 0 点
前衛	— 23 点
漢字	— 16 点
かな	— 5 点

臨書の部(21点)

臨書の部(21点)	
漢字	— 6 点
かな	— 7 点
現代	— 16 点
篆刻	— 0 点
前衛	— 23 点
漢字	— 16 点
かな	— 5 点

「漢字」

〈特選候補者〉

(創作の部)

「漢字」	
墨宣	鏑木 梅道
華祥	安藤 華祥
「かな」	奥田 小林 純風
「現代詩」	蒼原 島貴 琴燁
「前衛」	もく 游水 荒川 空華
秀水	坂井 初江
清流	渋谷 充律
山王	鈴木 春江
白珠	相内 珠莉
千葉	佐藤 桂香
（臨書の部）	小林 哲舟
「かな」	大雲 小倉 梅扇
蓮紅 千葉 華紅	弘舟 渡邊 多佳 英峰 渡谷由美子

総出品点数 73点

# 漢字研究部 (孟法師碑)

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品

# 龍駕傳神

板 村 悅 子

漢字研究部 特選 板村 悅子

巧みな字姿の摺み、正確な起收転折の用筆  
伸びやかな書線の見事な作です。濃やかな学  
書姿勢が窺えます。この力量故、例えば「駕  
」の第11画の円筆の妙味がとれれば、更なる高  
みへの期待大です。落款にも十分な注意を。

### ◎漢字研究部総評

合よく逃げ道に?と思える自選様の作も多数でした。「臨書は私を捨てて原本に忠実に」(『学書指針』一手島右卿先生書話 川崎白雲編著)でなければ大事なものは得られないでしよう。徹底した形臨の中に筆者の意を感じ、更にそのずっと先に意臨という領域が在るのでしょう。大先達の言を念頭に臨書を深く考え、意識を高くし、この場を研究部の名に相応しい学書の場にしたいのです。



千智洋ま敏美  
恵 ゆ  
子子子み子和

潮道紫清美素  
惠  
汀彥蘭美子春

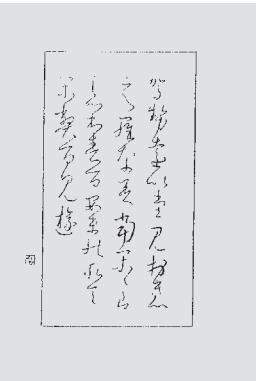
有麗桂雅白晃  
津流彩子香代

秀正雅由幸良  
子江風紀雲子

かな研究部  
(秋萩帖)

選評 田村澄子

今月のホープ作品



森 龍 博

◎かな研究部総評  
全体的によく臨書しておりますが、仮名字体、原始的な姿である「草」の手で書かれています。誤字が多くあり残念です。もう一度よく確認して下さい。

かな研究部成績表



永 満 博

春 信 陽

優 敏 代

信 紅 愛

簾 子 舟

華 子 詠

子 子 子

子 霞 石

かな研究部	特選	森田 龍博
高石前正岩こ洞 真習橋華沼だ書 秀	泉も生竹千春澄翠光澄竜雲た澄千澄前詢蘭高彩秀玉石竜 会く大扇葉汀春吟 春泉溪か春葉春橋扇鼎井 水松習泉	独草体、すなわち「草」の手本として江戸時代から重宝されていた、悠々と流れる線、運筆、味わいのある作品です。見事です。魅入ってしまいました。
梅内碓石五安 山田井橋崎十嵐 久皓 知正佳楊風	田青新山村冲宮長大岩櫻仲浜新戸宇別野川松伊門橋松森 野木井村田 内谷嶋瀬田西野行村田府村崎田藤脇本丸田 佐 川 内 川 ち 可啓翠炎笑幸千信祥龍游永満博春信陽優代敏信紅愛龍 三子實秀華子平峰子園貢溪簾子舟華子詠子子子霞石博	特選
高 陵 佳	白こも清上椿紅大A艸秀秀大紅紅た枝澄や竜奥若詢正彩鬼広竜華玉上高清 露だく月泉翠苑雲 I 玄水歌阪瑠璃か苑春ま泉田葉紹華 高島泉祥松泉井月	
會 木 作 勇 介	渡吉吉大山安茂堀藤中寺筑田須鈴猿佐齋後小工工木岸神川加加小大櫻江 辺野種和縣嶋木切村澤津井中田木渡藤藤林藤原田本藤藤川沢田田 喜 美 が美 重彩藤紀令沙真幸昌雅悟宏美香智簾香翠つ知純山香輝東典南龍雅彩淑茂 子祥玉子子子子枝舟広右苑香え子房蘭子子子丁恵芳香江子夫	
八童秀松 街泉敏村 入	明千如観千高秀千前小秀大竜幕 竜八松竜蒼大こ千た蘭大竜広幕千生こ苑伏秀 藻葉月水葉崎水葉崎柳汀水雲泉張 泉雲村泉陽だ葉か鼎雲泉島張字大こ書華明	こた昭秀澄千正大 大阪
足浅阿久澤 実君隆華	吉山八宮松福平春永富積高高泉七鹿後込小小河河小黒吳熊北北菊加大小大梅梅字岩岩今犬伊磯生池飯飯 助川川連 千理 田口木澤重浦島山山瀬澤田山橋水條田藤山林島野野板柳 谷村川池藤野熊森石原津野崎井閔飼藤貝田高田 み 岩寺喜 佳 鶴鈴順草翠玉歌形勝蓉雅花賢雅龍裕志良蕙萩み惠啓くさ竹豊紫憲 善翠加代喜星虹代華洋よ梨道英清萩幹光 子風子秋景江子華美汀子雲泉雲泉宝美江景子子ら葉美蘭舟祥高陽都子代祥祥子泉子子霞石子耀花渓生彩	うる 千葉
誠 顧 和 綠 か	た昌湘硯竹昌高英 樹八高清椿詢調高生大梓N 福竹渡大安大泉樹澄王筑樁A 誠澄竜千和や A 八華生誠有澄も艸千 か苑南水美苑崎峰 原街崎月翠扇布崎大阪江H 韻山扇近阪波阪会原春葉桜翠 I 和春泉葉平ま I 戸祥大和秋春く玄葉	
新志志塙狼佐佐櫻坂酒齊紺近古小小北岸川川河鎌金小小奥小岡大速生鶴宇字今猪井伊伊市板石石飯新新足 谷村水崎渡藤藤々田巻井藤野矢峰林林村又本元田島崎岡田岡野高山川 西藤方澤井村又上東藤川垣橋崎川篤井立 由 木 野 美 寺 美 由 翠抱起明冬初詠雅智麗恵早遊淑蹊加嘉晃澄雅欣春秋茱溫桂綾星壽萩久翠輝佐一珙美琴楠貴理英京寿紫青さ 甘洋紫藤静万 光舟子華香子芳舟苑子苗山子翠子江代子子峽西仙子子美扇藏美光鈴峰千子子泉鳳子雨子苑雪江琇	ひ	
芳春塙大京昌青英竹千や竹松生艸春玉 白大正澄白書木湘有や幕上さは王調書遊澄泉遊桂書春赤翠生湘玉や有椿春澄有う 遷蘭汀和阪橋苑峰美葉ま扇局大玄汀川 露阪華春子径曜南秋ま張泉つせ川布泉雲春会雲泉泉汀穂柳大南松ま秋翠光春秋る 外 205 渡渡若六吉吉吉横湯山柳茂村村宮湊三松松増牧前堀古福平林濱長野野西西浪永長中都渡津近田田田武竹高高瀬進 名氏名略 遷邊菜波田田田山本口 木田田野 嶋村佐岡田野田江郡田田 田田谷中沢卷澤川田井村丸子村池丸中玉山森橋田 羅 華 美妃 須タ と サ 信貞矩擎佑翠光蘭禮隆翠 珠津美敏陽白律華優幸幸美キ美玉陽より喜蕙ト彩秋時久笙ど紀秀柳春貞耶哲花弓久幸芳寿 漢子子玉子絆治春舟子子扇芳滿風枝子子子子子泉子子和華一子子子雅子峰花子仙景り子扇芳華子衣子源子子苑美子	青	

# [特別昇級試験臨書課題]

\*左記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。  
掲載以外は違反となります。

九成宮醴泉銘（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

大道無名 上德不德

玄功潛運 深莫測

大道無名。上德不德。／玄功潛運。深莫測。

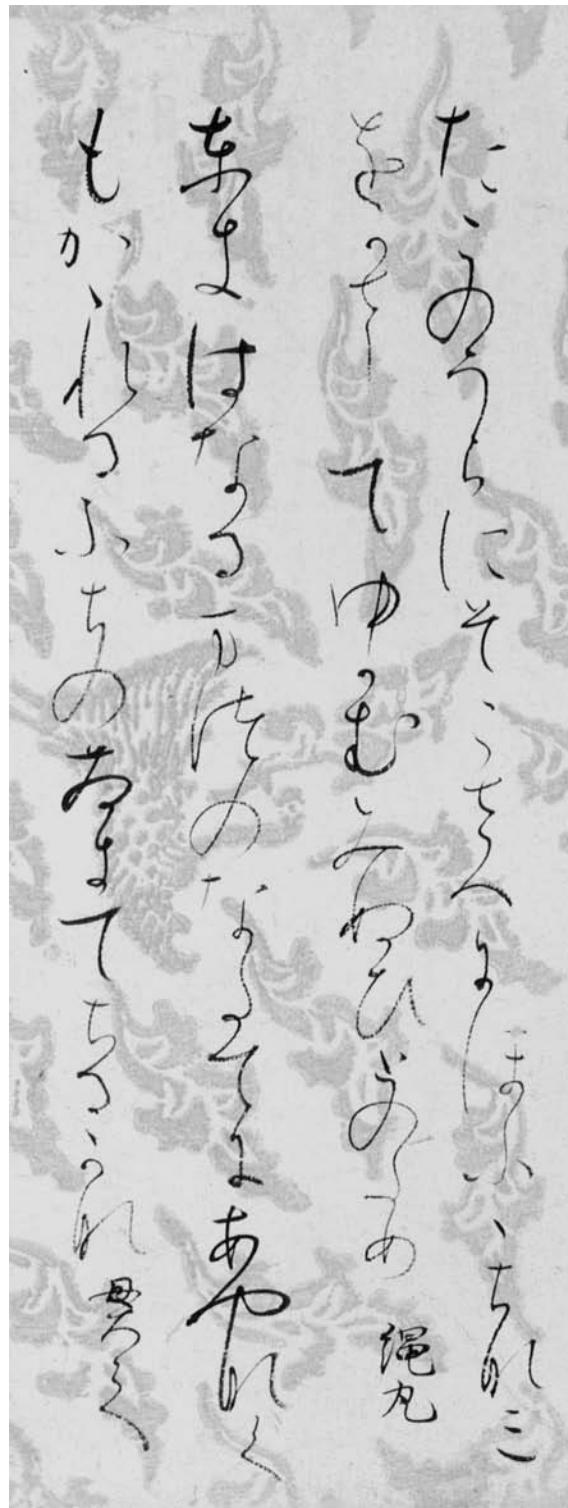
孔子廟堂碑（楷書）

漢字部

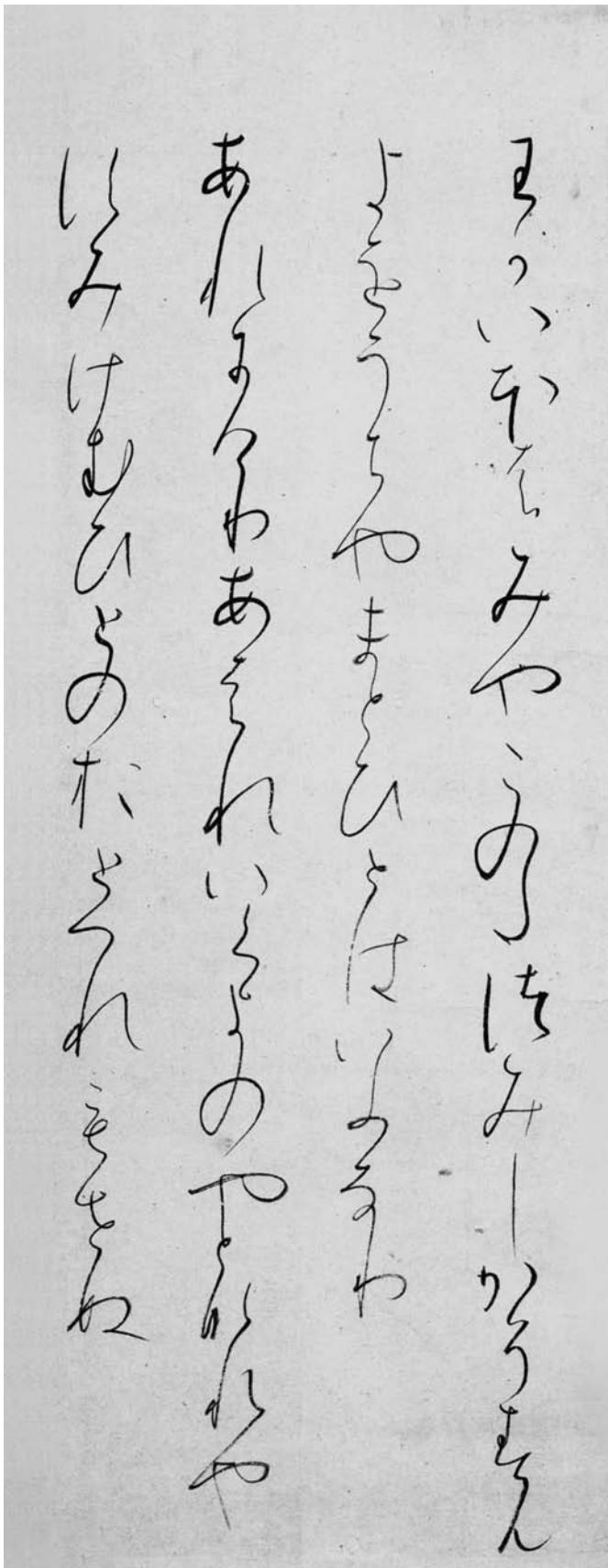
第二種 半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

然後知達學之為貴  
而弘道之由人也固

然後知達學之爲貴。／而弘道之由人也。國



たごのうらにそこさへにほふゝぢなみ那三をかざしてゆかむみぬひとのため繩丸  
ときはなるまつのはだてにあやなく那久もかゝれるふぢのさきてちるかな貫之  
東支 万徒 多 尔 可 多 支 可 那 可 那 可 那 可

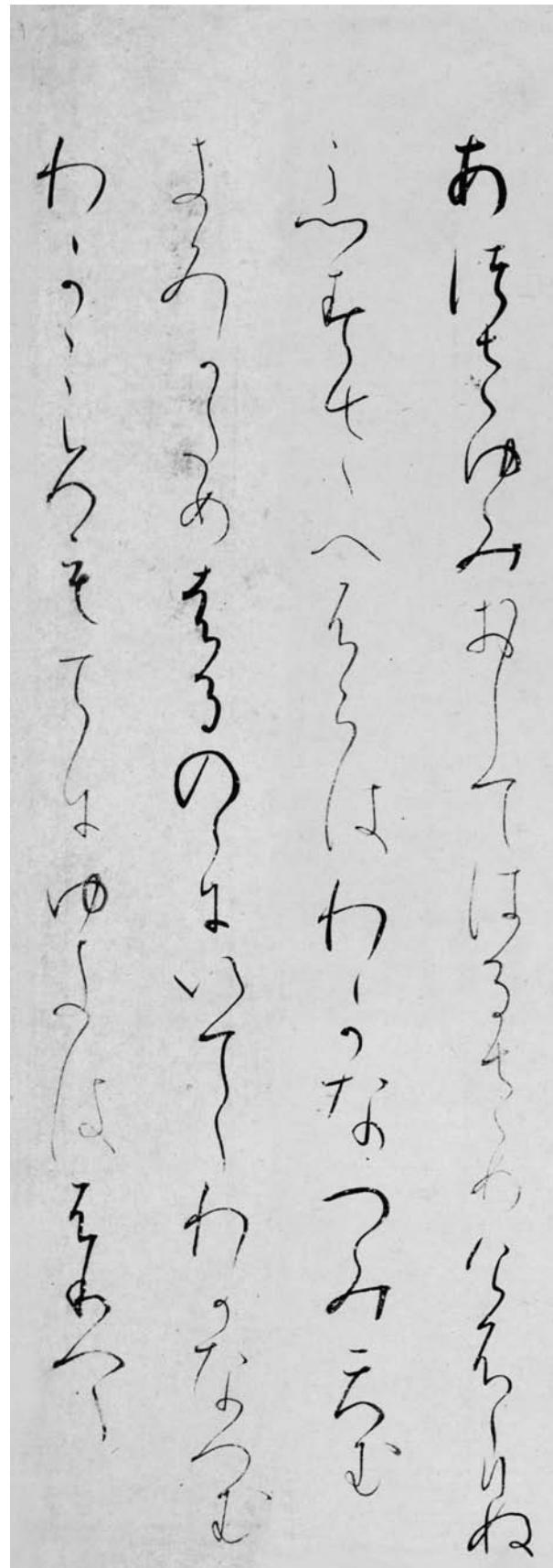


王可  
わがいほはみやこのたつみしかぞすむ  
本者  
多徒  
春无  
奈利  
わがいほはみやこのたつみしかぞすむ  
利  
あれ  
爾介利  
あれけりあはれいくよのやどなれや  
久  
那  
須  
於  
毛世  
せぬ

高野切第一種 かな部 第三種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く（料紙可） △93%縮小▽

あづさゆみおしてはるさめけふりぬ／あすさへふらばわかなつみてむ  
きみがためはるのゝにいでゝわかなつむ／わがころもでにゆきはふりつ  
支多者可爾可毛尔利



(たて12.7センチ×よこ12.4センチの枠を  
半紙に書いて、その中に書くこと)

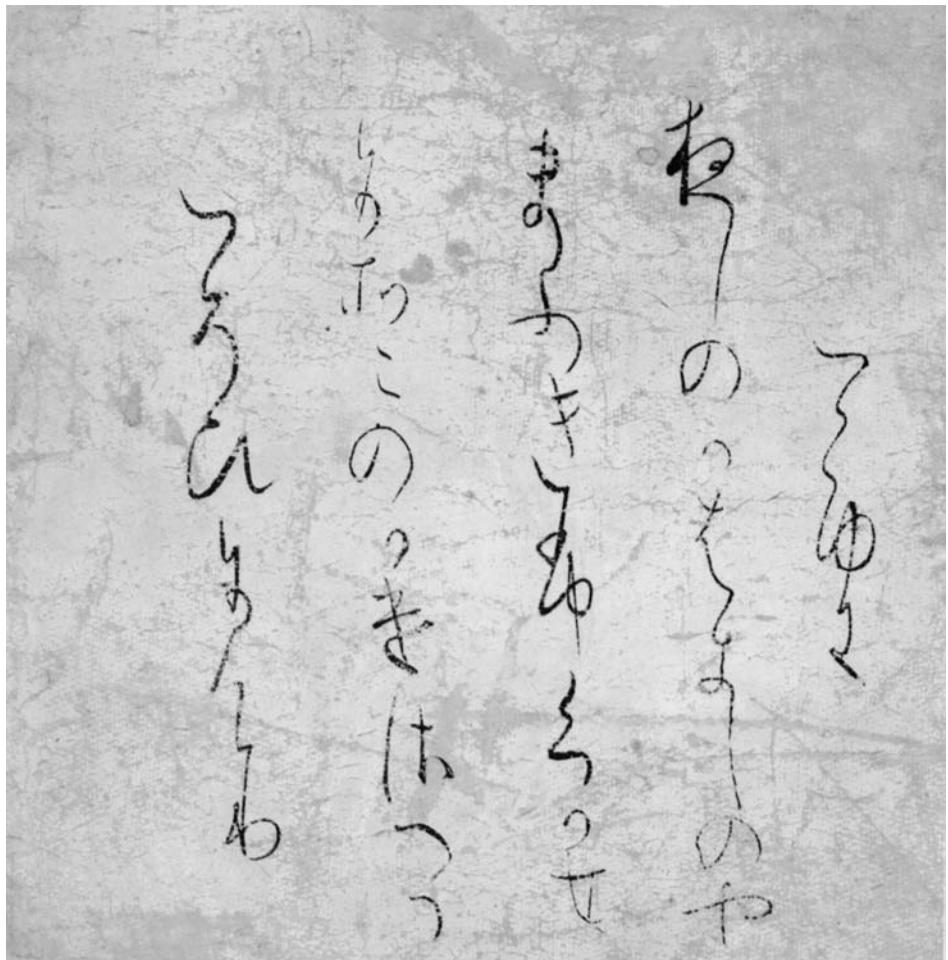
(料紙可)

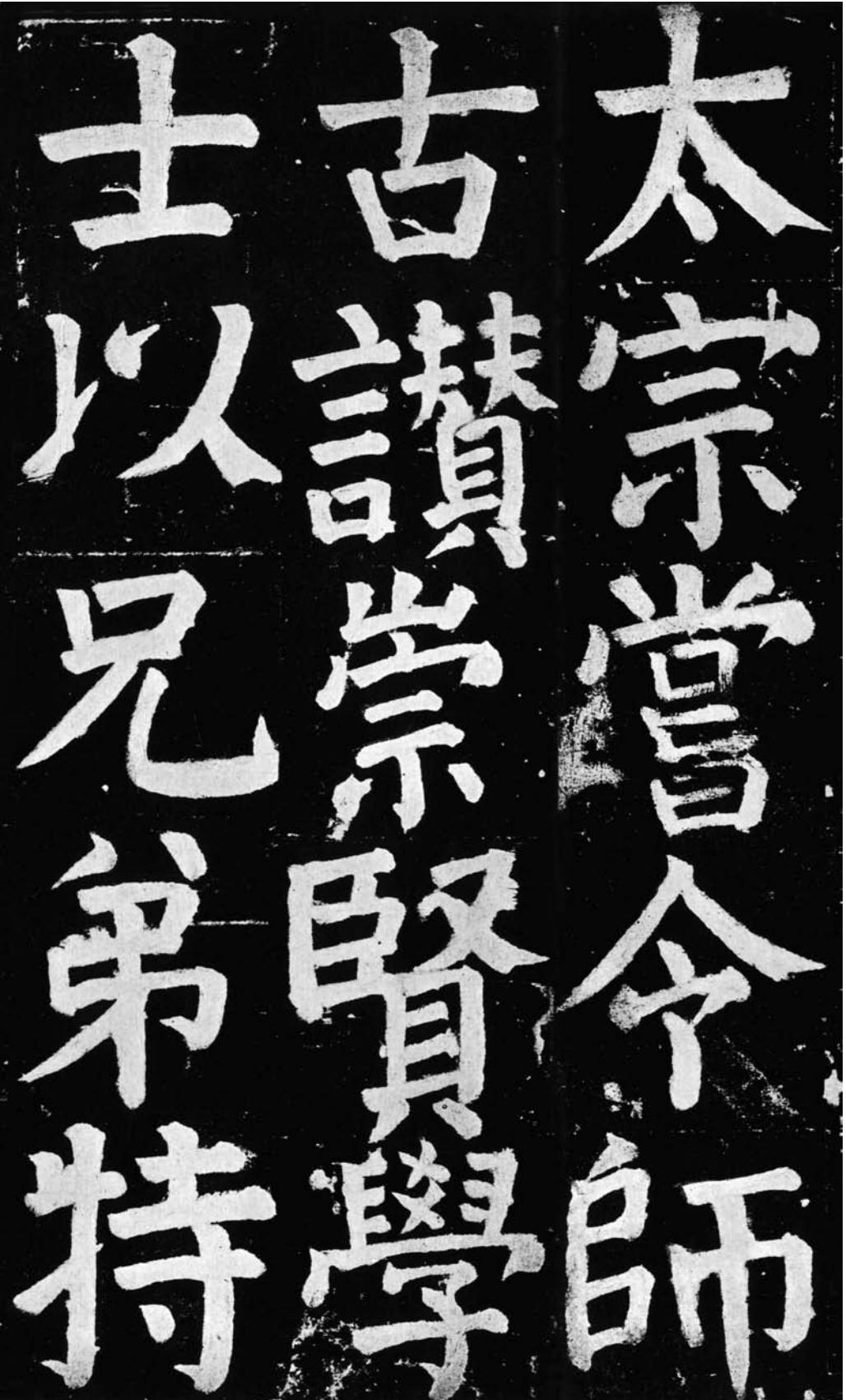
※落款は右枠内でも

枠外でもかまわない

△原寸大△

つらゆき 支

よしのがはきしのや  
夜  
者支まぶきふくかせ  
布久可にそこのかげさへう  
尔所可遣佐つろひにけり  
尔介利



太宗嘗令師／古。讚／崇賢學／士。以／兄弟特

若合一契未嘗不臨文嗟悼不能喻之於懷固知一死生為虛誕齊彭殤為妄作後之視今亦由今之視昔悲夫故列

若合一契。未嘗不臨文嗟悼。不能喻之於懷。固知一死生為虛誕。齊彭殤為妄作。後之視今。亦由今之視昔。悲夫。故列

ちよの津村薄衣玄是辯  
曰帝可云也書三皇  
子帝以未尙多聖又精  
妙ちう多觀也波多抄聖

知有漢時講堂在。是漢何帝時立此。知畫三皇  
五帝以來。備有畫。又精妙。甚可觀也。彼有能畫